

令和4年度 厚生委員会行政視察報告書

厚生委員会
委員長 久保 大憲

1 視察期間 令和4年7月14日(木)から7月15日(金)まで

2 視察先及び視察事項

(1) 7月14日(木) 千歳市

「保育士の就労支援及び処遇改善について」

(2) 7月15日(金) 札幌市

「札幌市子ども発達支援総合センターについて」

「都心部子ども関連複合施設（資生館小学校）について」

3 視察参加委員

委員長 久保 大憲

副委員長 東 篤

委員 柏 佳枝

〃 織田 伸一

〃 吉田 修

〃 押田 大祐

〃 高道 秋彦

〃 成田 光雄

4 随行職員

議事調査課議事係長 酒井 優

議事調査課主査 中村 千里

5 視察概要

7月14日(木) 千歳市

人口9万7千人／世帯数5万1千世帯／面積594.50km²

(R4.4.1時点)

(1) 視察事項

保育士の就労支援及び処遇改善について

(2) 視察の目的

高い水準で推移している保育需要に対応するため、保育の受皿を確保するには、保育士の確保が重要な課題の一つとなっている。

国においても保育士に対する大幅な処遇改善など、保育士確保のための施策を積極的に実施している中で、千歳市では独自の取組によって保育士の就労支援を行っている。

本市においても、今年度から保育士宿舍借上げ支援事業を行っているが、今後も保育士の確保に向けて積極的に取り組む必要があることから、施策の参考とするもの。

(3) 取組の概要

千歳市では、子育て中の保護者等で構成され、女性視点で子育て支援策を検討する「千歳市子育てママ応援会議」の提言を受け、令和元年に「ちーマインダー」を開設した。

「ちーマインダー」とは、保育士就職相談窓口の愛称であり、就労や職場復帰に対する不安等についての相談を受け、円滑に保育士として働けるよう支援を行うため、窓口や電話での就職相談の実施や無料職業紹介所の運営を行っている。

無料職業紹介所では、保育支援員が中心となり、面接日時等の園との調整のほか、本人が希望する場合は、面接の立会いや条件が合わなかった場合の園への断りを行うなどの対応を取っており、求職者の負担軽減を図ることで利用者増を図っている。

課題としては、求人は長期（正職員）が多い中、求職は短期（パート）が多く、ミスマッチが起きているため、短期で働いた後に長期で働きたいと思うようなケースもあることから、園に対して柔軟な採用を行うように助言をしているとのことである。

そのほか、保育士や幼稚園教諭を目指す学生や潜在保育士を対象に、実際に園を訪問してもらい、園の雰囲気を感じてもらうことにより就職につなげることを目的にした「リクルートバスツアー」の実施や、会場に参加各園がブースを出展し、訪問した参加者に対して説明を行う「保育士・幼稚園教諭等合同就職・面接説明会」の開催など、多彩な取組ときめの細かい対応で、着実に保育士の確保につなげている。

(4) 所感

〔久保委員長〕

潜在保育士の視点や気持ちに寄り添い、社会復帰するハードルを下げるために、市が民間の保育所との間に入り調整したり、面接に随行したり、保育所に対して採用を辞退する旨の連絡をするなど、きめの細かい様々な対応を工夫しながら実施していた。

本市でも千歳市の取組だけではなく、一人一人の職員が千歳市の職員のように成果を出すために、当事者の立場やニーズを把握し、対応策を実施していく姿勢を伝えていきたい。複数の保育所を見学したいというニーズは民間の取組では実現しそうにないので、今後、市としての実現性の調査をしたい。

〔東副委員長〕

千歳市は保育士就職相談窓口を開設し、窓口、電話、メールによる就職相談と、無料職業紹介所事業を実施している。この事業により、着実に保育士確保につながっているとのことである。一方で、求人側は長期（正職員）雇用を多く求めているのに対し、求職側は短期（パート）を求めるケースが多く、ミスマッチを解決するため園に柔軟に採用するよう助言している。ほかにも、園訪問リクルートバスツアー、保育士・幼稚園教諭等合同就職・面接説明会、保育士養成校との連携などを実施している。

富山市でも保育士や幼稚園教諭となる人材の確保のため、これらの事業は大いに参考になった。

〔柏委員〕

千歳市の特徴として、年々若い世代の人口が増加傾向にあり、また自衛隊関係者が人口の20%以上を占めることで、転勤が多いため保育士の入れ替わりも多く、保育士の需要が高くなっている。

保育士の就労支援においては、子育て中の保護者の提案で設置された「ちーマインダー」があり、保育士の就職相談や無料職業紹介所を運営している。そのほか、リクルートバスツアーや保育士養成校との連携など、独自の工夫と発想で様々な施策を行い、一定の成果につながっている。千歳市の先進的な事例を参考に、今後の就労支援に反映できるように取り組みたい。

〔織田委員〕

「ちーマインダー」は保育士就職相談窓口事業の愛称であり、千歳・チャイルド・お世話といった意味が込められている。保育士不足に対応した事業は既にあったが、令和元年に子育て中の保護者らで構成された「千歳市子育てママ応援会議」において、女性視点で子育て支援策を検討した際の提言を受け、内容を大きく充実強化し事業化されている。就労や職場復帰の際の不安を当事者視点で解消を図っている点がすばらしい。

無料職業紹介所では、紹介所が仲介を果たし、面接の日時調整から、面接後、条件が合わなかった場合のお断りなど、求職者の負担軽減を図っている。

また、「リクルートバスツアー」は、幼稚園教諭や保育士を目指す学生や潜在保育士を対象に実際に園を訪問してもらい雰囲気を感じてもらうことにより就職につながることを目的に実施されているが、ツアー参加を機に参加者同士の情報交換にもつながることが期待できる。これら当事者視点を持って事業設計することの重要性を学んだ。

〔吉田委員〕

千歳市は自衛隊関係者が人口の20%以上を占め、平成27年国勢調査では平均年齢が42.9歳。保育へのニーズは高い。千歳市の取組は、市が主導して「リクルートバスツアー」や合同面接・説明会を企画するなど、発想が豊かでユニークであった。

人口は9万7,000人弱であり、機動的に施策を推進できることもあるが、保育現場の知恵や工夫を生かしているところが大事だと感じた。

待遇改善の取組に関心を持っていたが、やはり基礎自治体でできることは限られており、国が本腰を入れる必要性を、改めて感じた。

〔押田委員〕

千歳市では「ちーマインダー」「保育士紹介キャンペーン」「リクルートバスツアー」、その他の保育士確保政策について学んだ。

令和元年、「千歳市子育てママ応援会議」からの提言が発端であるが、この会議の存在がすごいことである。富山市がつくれれば各種団体長や専門家を並べ立て、お仕着せの会議をしゃんしゃんと進めていくのだろう。

千歳市では、一市民の意見から、「ここまでやるのか？」と思うくらいの政策をラインアップしている。正直言って驚きを隠せない。

千歳市で一番参考となったのは、「利用者目線、市民目線が市の担当者にしっかり行き届いているからこそ、市の施策に生きる」ということだと思う。

富山市の行政マンも視察に行ってもらいたい。

〔高道委員〕

千歳市は、自衛隊関係者(OB含む)が人口の3割を占め、年間約6,000人が転入出する地域特性のため、若い世代の子育て環境整備を金品によるインセンティブでの居住促進ではなく、いつどのような人が住んでも「安心して妊娠・出産・子育てができるまちづくり」に取り組んでいた。

「ちーマインダー」はマッチングにより効果的に保育士確保を図り、「保育士紹介キャンペーン」「リクルートバスツアー」は保育士を目指す学生や潜在保育士に園の雰囲気を感じてもらい就職につなげていることなど、特色ある施策であると思った。

〔成田委員〕

保育士就職相談窓口の「ちーマインダー」の設立されたきっかけとなった「千歳市子育てママ応援会議」をはじめ、無料職業紹介所の利用者増加を目的にした「保育士紹介キャンペーン」など事業の効果がある取組で今後に期待できる施策である。

「リクルートバスツアー」についてミスマッチ対策や現役保育士のやる気につながるなど、とてもいい事業だと理解した。さらに実績を重ねることで、この取組の発展性を感じた。千歳市は子ども政策として就労支援対策にきめ細かく取り組んでおられ、本市としても参考になる内容の視察であった。

7月15日（金）札幌市

人口197万人／世帯数98万1千世帯／面積1,121.26km²

(R4.4.1時点)

(1) 視察事項

- ・札幌市子ども発達支援総合センターについて
- ・都心部子ども関連複合施設（資生館小学校）について

(2) 視察の目的

札幌市子ども発達支援総合センターでは、発達に遅れや障害のある子ども、心の悩みを抱える子ども等に対し、子どもの体の発達と心の成長の両面からアプローチし、より適切かつ質の高い医療・福祉支援を総合的に提供している。

また、都心部子ども関連複合施設は、ドーナツ化現象による都心部の児童減少に伴い、学校統合による規模適正化のため4つの小学校を統合し開校された資生館小学校のほか、ミニ児童館、子育て支援総合センター、保育園から成る複合施設である。さらに、令和4年度からは北海道初の公立夜間中学校である星友館中学校が開校した。

これらの施設の視察を行い、本市における子どもの発達支援や子ども関連施設の複合化における参考とするもの。

(3) 取組の概要

札幌市子ども発達支援総合センター

札幌市子ども発達支援総合センターは、子ども心身医療センター、発達医療センター、児童心理治療施設「児童心理治療センターここらぽ」、福祉型障害児入所施設「自閉症児支援センターさぽこ」、福祉型児童発達支援センター「かしわ学園」、「はるにれ学園」、医療型児童発達支援センター「ひまわり整肢園」、「みかほ整肢園」の施設で構成されており、それぞれの部門が協働し子どもの状況に応じた適切な支援につないでいる。

医療と福祉を一元化することで、専門性に偏りがなく、一人一人の子どもに対して必要な支援を提供できることや、職員においても自分の専門分野のスキルアップを図るだけでなく、様々な職種の視点で物事を見るよう、意識の変化につながっているとのことである。

現時点では、児童精神科の医師が不足しているため、受診できるまでに時間がかかることや、多くの専門性を組み合わせるどのようにコーディネートして支援をするのか、また、今後地域をどう支援していくのが課題であるが、まずは、相談機能の充実を図ることで利用者のニーズを満たしていきたいとのことである。

この施設の愛称は「ちくたく」であり、時計の秒針のようなイメージで、ゆっくりでもいいから、少しずつでも成長してほしいという思いが込められている。

都心部子ども関連複合施設（資生館小学校）

札幌市では、20数年前より少子化の影響で学校の小規模化が進んでおり、学校規模適正配置検討懇談会で打ち出された基本方針に伴い、児童数が減少し、なおかつ老朽化

が著しい都心部の4校を統合して新たな小学校の開設が決定した。

また、出生率が全国平均を下回る中で、抜本的な対策が急務であることから策定された「さっぽろ子ども未来プラン」では、さらなる子育て支援を展開するために、子育て支援センターを設けることとなった。

さらに、夜間保育など、市民の多様なニーズに合わせた保育園や、放課後の児童健全育成のための学校併設型ミニ児童館を設置することとなり、複合施設として新校舎を設立することになった。

学校統合に当たっては、統合反対の請願が提出されるなど反対の声も多くあったが、1年弱で70回余りの説明会を開催し、統合は行政の都合ではなく、あくまでも子どものためのものであることを理解してもらったとのことである。

こうした経緯で設置された都心部子ども関連複合施設は、相互交流、開放、環境、安全の4つをコンセプトとしたつくりになっている。

まず、相互交流を図るために、1階のエントランスやグラウンド等を共有にすることで、自然な交流が生まれることを期待している。

また、ヒートアイランド現象緩和のためグラウンドの全面を芝とするなど、環境に配慮した造りになっており、安全面においては、監視カメラの設置や、入り口に管理防災室を設置し、常時警備を行っている。

複合施設としての連携した取組については、合同避難訓練の実施や運動会への参加、小学生が子育て支援総合センターに登録している乳幼児の成長・発達を学びながらふれあう「赤ちゃんってすごい！」事業などが挙げられる。

複合施設としたことにより都心部にある土地の有効活用や、交流事業による世代間交流を図ることが可能となった一方で、経費等の費用按分や、共用部の使用に調整が必要となった。

開校から18年がたち、今年度、星友館夜間中学校が開校し、来年度は子育て支援総合センターが移転する予定となっている。設置当初の意義が薄れる中で、複合施設内の体制にも変化が生じており、子どもに特化した施設として、コンセプトを受け継ぎながら時代の変遷に合わせてその役割を全うしていく必要があるとのことである。

(4) 所感

[久保委員長]

札幌市の人口規模は富山県の倍であり、「ちくたく」と同じ規模・機能を持った施設を保有することは困難であるが、「ちくたく」には保育士などが配置されており、富山県が同様の施設を設置する際には本市として人材的な支援が可能であり、中核市としての責務を果たすためにどのような支援ができるのか今後もしっかり調査していきたい。

資生館小学校では夜間中学校が開校され、年代の偏りもなく、様々な人が学びに来られているとの説明を受け感心した。今後も夜間中学校の在り方について調査・研究し、本市に導入可能か検討したい。

〔東副委員長〕

札幌市子ども発達支援総合センターは、身体面と精神面で支援が必要な子どもに対し、医療・福祉支援を総合的に提供する、入所施設や通所施設などを複合した施設である。スタッフは複合化により、医療と福祉の互いの仕事を見て考えるようになり、スキルアップが図られてきたとのことで、病院施設を持つ富山市も参考にできると思う。また、旧市立病院分院を再活用しており、自治体財政にも貢献している。

都心部子ども関連複合施設は、小学校、夜間中学校、ミニ放課後児童クラブ、民間保育園、子育て支援総合センターが入る複合施設である。異なった施設が同居しているため、施設運営協議会をつくり、光熱費などの維持管理経費は概ね面積按分している。富山市での公共施設再編でも、この複合施設の手法は参考にできると思う。

〔柏委員〕

札幌市子ども発達支援総合センターは、医療と福祉が別の部局であるため連携がうまくできないことや、子どもの問題は一人一人に様々な問題があることなどから、平成27年から現在の形態となったとのこと。早期発見のために、発達障害を判断する人材の育成や、相談機能の充実に力を入れている。課題としては、児童精神科の医師不足や専門性をどのように育てるのか、地域をどう支援していくのかなどが挙げられていた。

都心部子ども関連複合施設については、少子化に伴い複数校が合併し、その後、子育てニーズや時代の変化に合わせた形態に対応され、複合施設として新設された。

札幌市の視察で感じたことは、1人の子どもにどのように関わっていくのか、トータルで長く支援をしていくためにはどうしたらよいのか、今後、本市においても様々な角度からの取組が必要であると思う。

〔織田委員〕

札幌市子ども発達支援総合センター「ちくたく」は、発達に遅れや障害のある子ども、心に悩みを抱える子どもやその家族に対して、心と体、また、医療と福祉の両面から総合的に支援を提供する施設となっている。1人の子どもの支援には、様々なアプローチやタイミングが必要であり、各々知識や専門性が求められる。従来、その知識や専門性を持った施設は分散していたが、それら施設の統合を図ることにより、現場現場での相互理解や、情報共有、支援連携が生み出されることになった。この相乗効果は、例えば医療と福祉の相互理解、職員の領域外知識やスキルを向上させ、それが支援サービス全体の向上につながっていることを理解した。

都心部子ども関連複合施設（資生館小学校）は、小学校4校の統合に加え、保育園、子育て支援総合センター等を併設している。統合前の各小学校の伝統や歴史に敬意を払い、これらをメモリアルホールに展示している。精神の継承の大切さを開拓地北海道に学んだ。

〔吉田委員〕

札幌市子ども発達支援総合センター「ちくたく」では、素晴らしい理念と実践をされ

ていることに感銘を受けた。障害のある子どもと親へ、医療・福祉の連携で総合的に支援する施設体系が1つの敷地内にある理想的なものだと思う。このような施設が全国に広がることを期待したい。

資生館小学校は、小学校統廃合の中で生まれた「子ども関連総合施設」である。小学校統廃合をこのような施設体系に発展させた発想と関係者の努力に敬意を表する。富山市の学校統廃合では、どのような教育・学校、地域をつくるのかの論議が不足している。大いに学ぶべきである。

〔押田委員〕

札幌市子ども発達支援総合センターでは、以前は「心」、「体」を診る場所が違っていたのを統合し、情報共有とベストタイミングの診療などを施すことがきるようになったと聞く。医療と福祉のハイブリッド型のセンターで、利用者の観点や、施策的にも「ハコ」と「人」をうまく活用していると言える。部局を超えた統合には難もあったと思うが、市民のためという信念すらうかがえる。

都心部子ども関連複合施設は都心部の小学生の減少が起こりとなった統合小学校である。これは、富山市の小学校統合問題と合致する。さらに札幌市では「保小連携」も進めている。こちらも富山市で議論していかねばならない政策であることから、短時間で概要のみの説明ではなく、再度訪ねて富山市の施策計画を携えて、じっくり照らし合わせてよりよい政策提言を行いたいと思う。

〔高道委員〕

「ちくたく」は時計の秒針のようなイメージでゆっくり、少しずつ成長してほしいという思いが込められた愛称で、対象の子どもにとって、どのような時期にどのような支援が必要なのかを医療や福祉など多様な視点で、より適切かつ質の高い支援を提供している。

また都心部子ども関連複合施設は、小学校統合や環境、安全など「まちなか」ならではの特性や問題点を考慮され、相互交流や開放することで地域を大切に配慮し運営されていた。札幌市の子どもに対する取組は、他自治体の先進的な施策であると思った。

〔成田委員〕

「ちくたく」に出向き事業概要や設置の経緯などの話を伺い、施設見学をさせていただいた。施設の利点として医療・保健・福祉・教育関係機関が連携し、偏りが無いサービスの提供や、職員のスキルアップについても成果を伺い施設の特徴を知ることができた。また課題として挙げられている児童精神科医師が少ない現状を踏まえ、札幌大学の精神科医の養成にも市が補助しているなど、札幌市全体の支援体制の取組を伺うことができ、本市においても同じ課題である医師不足対策に積極的に取り組んでいることを感じた。

資生館小学校については4つのコンセプトをかなえた複合施設の経緯や今後の課題について伺ってきた。防災対策として様々な設備が完備され安全性を重視した建物であ

った。中でも避難効率を考えてバルコニーから非常階段へ直結している特徴ある施設で勉強になった。

令和4年7月14日（木）千歳市



令和4年7月15日（金）札幌市 子ども発達支援総合センター「ちくたく」



子ども発達支援総合センター「ちくたく」



都心部子ども関連複合施設（資生館小学校）

